

まきばのかぜ

2018年度 園だより 11月号

秋の「まきばむら」

園長 大沢千佳子

10月は行事が続きました。

子どもたちが見せるいくつもの姿に笑顔になり、胸が熱くなった運動会。ご家族の雄姿には今年も大きな歓声が上がりました。

地域からも多くの人々が集まり、子どももおとなも楽しんだオータムフェア。久しぶりに登場した図鑑's。その優しさと透明感のある世界に魅せられ、ギャラリーの作品が醸し出す慕わしさに感じ入って下さった方もきっと多くいらしたのではないのでしょうか。親子で創った教会のステンドグラスから生まれたクラフトは、灯りのある場所や日が差し込む場所に置いてその不思議な色の重なり合いを楽しめますね。

最後は、子どもたちが今年も夢中になったハロウィン。ケルト人の伝統から始まったお祭りは、ジャック・オー・ランタンと仮装と合言葉で大いに盛り上がりました。

そして迎えた11月。

抜けるような青空に心も開かれ、樹々をわたる風には秋の陽の匂いを感じます。遠くの山々のいただきから始まった紅葉はもうすぐ『まきば』にも訪れ、陽ざしをうけて美しく輝き、やがてカサカサと音をたてながら落ちて園庭を覆いつくし、晩秋へと季節はゆっくりとすすんでいくことでしょう。

子どもたちの遊ぶ姿も、季節に合わせるかのように落ち着きを見せてきました。

ここにひとり一人の居場所がある、そう思える姿です。それは4月から今に至るまでの日々、それぞれが自分の足で歩んだ先にある今の姿なのです。

工藤直子さんの「のはらうた」から

のはらむらは てんきのよいひもあれば、あめふりのときもあります。

のはらむらのみんなは きげんのよいときもあれば、しょげているときもあります。

いろんなときがあり いろんなきぶんがありますが、

かわらないのは いつも だれかが うたをうたっていることです

「まきばむら」の98人の子どもたちと48人のおとな。

みんなが、今日もそれぞれの一日を思う存分に生きてくれますように。

一人ひとりのうたをうたってくれますように。

これからも変わらず、人にもモノにも居心地の良いゆるやかな場所でありますように。

そう思い願った秋の日。

今月もどうぞお健やかに過ごしてくださいように。

“つぶやき…”

寝ない、食べてくれない、泣き止まない。子どもが私の言うことを分かってくれない。汚す、散らかす。私の努力が台無しにされているように感じてしまう。

泣き声が私を追い詰め、私の心の容量を超えていく。子どもが嫌いになりそうで怖い。

私の光であったはずの子どもが、私を縛り付ける。私がしたいことはこれだったの？眠れない日が続く。時間が永遠に連続しているように感じる。昨日と同じことが今日も繰り返される。自分のなかのやもやが抑えられない。怒りが湧いてくる。誰にむかってのものなのか…。

子どもが一番でなければならないことは分かっているのに、それが出来ない。叱っているのは子どものためなんかじゃない。私のイライラを発散させているだけ。弱い、弱い私。いい母親になてなれない。自分が嫌になる。どうしても、怒らずにられない。

「何を怒っているんだ。子どもがかわいそうじゃないか。もうちょっと優しく出来ないのか」夫の言葉が突き刺さる。真面目すぎるのよという母の声も聞こえてくる。それって、責任のない人の言葉よね。私が悪いってということなの？周囲から追い詰められ、子どもに縛られる日々から逃れられない。自由がない。充実感がない。どう逃れば良いかが分からない。行き詰ったら子どもから離れなさいと言われるけれど、自分の子を置いては行けない。あなたは私がいなければ生きていけないことぐらい分ってる。溢れてくる涙。涙。涙。子どもが私にそっと微笑む。自分は優しくなんてできないのに…。

涙を流している私に、子どもが水を持ってきてくれる。私の腕をさすってくれる。

なぜ、あなたはそんなに優しくしてくれるの？

ひょっとして…、言葉ではなく、分かってくれているの？

大切なあなたをしっかりと抱きしめたいという私の気持ち。

どんなことがあっても、私は決してあなたを離さないということ…。

迷いながらもあなたと一緒に生きていきたい。

今を越えれば、今を越えれば、明日がくる。

朝日はきっと何もなかったかのように昇ってくる。

「あなたが大切。まず、自分を少しでも楽にすることを考えて…」

そんな声がどこからか聞こえてくる。

発行 公益財団法人東京 YWCA 東京 YWCA まきば保育園

住所 〒182-0022 調布市国領町 7-11-1 電話 042-483-5208

<http://www.tokyo.ywca.or.jp/child/makiba/>